

「グリーンツーリズム里山」 宿泊感想記

樋口 博美

2011年9月4日夏季実態調査第一日目の宿泊は、グリーンツーリズム体験を提供する宿への分宿であった。

すでに夜7時を回りますます暗くなる中、どこまで奥へ、上へいくのだろうかと思い始めた頃、ようやくバスが目的地であるその日の宿「グリーンツーリズム里山」へ到着した。愛媛県喜多郡内子町川中にあるその農家民宿は藤淵夫妻が経営している。バス降車後の玄関までのアプローチはどこかのお宅を訪ねていくような気分であり、玄関を上がってすぐの素朴できれいな白木の内装に囲まれたリビングにはどこかに「帰ってきた」気分できつろげる雰囲気広がっていた。迎えてくれた妻のミツ子さんに促されて大きな座卓の前に腰を落ち着けると目の前には白木のカウンター、その向こうが台所になっている。カウンター越しに食事の用意が整い始めた頃、「うちこグリーンツーリズム協会」（交流・定住促進のための体験や農家民宿のPR・情報発信を行っている）の会長をしているという夫の利通さんが入ってきた。物静かで落ち着いたこの宿のオーナーに、ミツ子さんの手料理をいただきながらいろいろ話を聞いた。

現在、内子農家で宿泊施設を提供しているところは、ここグリーンツーリズム里山を入れて十数軒ある。競合したり、お客が偏ったりすることはないのか気になるところであるが、現在のところは均衡が取れているようだ。確かに、建物、料金は皆少しずつ異なり、特徴（ウリ）も違うようである。藤淵さんのところでは、宿を開く前から50年以上もぶどう観光農園を営んでいるとのことで、果樹園での人々の交流も提供している。話の途中、良いぶどうの見分け方の話に至ると、その話しぶりはとても真剣で印象深かった。

それにしてもなぜこのグリーンツーリズムの宿を開くことにしたのかを尋ねてみた。すると、多くの人に農村暮らしの良さを味わってもらい、村並みの活性化にもつなげたい（それを志す人たちの話に共感するものがあったそう）との思いからこの宿のオープンを決意したのは、意外にも（？）夫の利通さんであり、妻が反対する中、その実現を目指してグリーンツーリズムに関する視察や研修に熱心に出向いたという。この夜宿泊した部屋には、この宿を始めるまでの軌跡を追った小さなアルバムがあり、海外、国内の研修先での写真の数々に利通さんの姿があった。研修先でも勉強会でも、他の人たちが夫婦で参加する中、妻が反対している「自分だけがいつも一人だった」という利通さんは、それでも自宅の納屋を宿に改築すべく自ら改修し、せっせと準備を続けた。とはいえ、本当に宿を始めたら一人ですべてをまかなっていくのは難しいであろうことを承知していた利通さんは、ミツ子さんに「トイレ掃除もする、風呂も洗う、

窓をぴかぴかに磨く、とにかく自分は何でもするから宿を手伝ってほしい」とお願いし、ようやく協力を取り付けたようだ。かくしてグリーンツーリズム里山は7年前の平成16年に無事オープンした。しかし、宿を始めて1年も経つとミツ子さんがそのおもしろさに目覚め、お客のもてなしや触れ合いが今はとても楽しいのだと言う。また、ミツ子さんからすると民宿施設を始めてからの一番の変化は“利通さんの変化”であったともいう。宿を始める前はどんなに近くに新聞があっても自分では取らない、お茶も自分では入れないタイプであった利通さんが、自ら新聞を取り、お茶を入れる夫に「変わった」。「自分自身も強くなりました」と話を続けるミツ子さんの傍らで、「いや、(妻は)もともと強かったことは強かった」と利通さんが楽しそうに横槍を入れる様子は、宿を開いてから少しずつ新たな関係をはぐくんでこられたご夫婦の歩みを垣間見るようでもあった。他の宿でも運営上、やはり女性の力は不可欠のようであり、グリーンツーリズム協会の「女性会員の集い」では、ふだん主に接客、食事の準備、掃除などを行う女性たちが集まり、時折会員の宿や施設を訪ねては互いに情報・意見交換を行っているという。元気な女性が増えたことが、グリーンツーリズムの順風満帆の要因であり、そして結果なのかもしれない。

グリーンツーリズム里山でも食事はミツ子さんが作っており、この夜も新鮮なレタスと蒸し鶏のサラダに、川で釣ってきたという鮎の塩焼き、ぜんまいの煮つけや露のきやらぶき、豚や空芯菜、しいたけ、ピーマンの焼き物、もち麦うどん（これは愛媛のもち麦でつくった地元うどんらしい）にお櫃に入った自家製米のご飯などなど、数えきれない料理が食卓に並び、その素朴なおいしさに驚いた。カウンター近くの棚に並んだお酒も一緒にいただきながら、よくよく見ると地元のお酒以外に、泊りに来た方が持ってきた酒類とのことで、県外の銘柄が並んでいた。いろいろな人がこの宿にやってきてはくつろぎ、リピーターとなっている様子が知れる。

次の日、朝起きるとご主人はすでにぶどう農園に出かけたとのこと、こちらにも足を延ばしてみたいものだと思うつつ、集合時間にせかされるようにミツ子さんの運転する車で迎えるバスがやってくる地点まで下ったのだった。



写真：緑に囲まれた「グリーンツーリズム里山」